

平成29年度北海道大学大学院

文学研究科修士課程入学試験問題（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input checked="" type="checkbox"/> 社会人特別入試
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（日本史学） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	<p>本研究科修士課程を日本史学専修において修学するにあたって必要とされる日本史学に関する知識ならびに史料読解力を問うために出題した。「問題Ⅰ」では、日本史を理解するための重要なテーマにつき論述形式で解答させることにより、受験者の問題関心および論理構成力の程度を問うた。「問題Ⅱ」では、前近代もしくは近現代に関する設問を選択のうえ解答させることにより、受験者の専攻する時代における基本史料の読解能力の程度を問うた。</p>

平成29年度
北海道大学大学院文学研究科修士課程入学試験問題（後期）
（専門試験） 日本史学 全5枚のうち1枚目

この試験では、試験問題5枚、解答用紙2枚を配付する。

.....

【問題の構成】

- ① 全2問。問題Ⅰと問題Ⅱとからなる。
- ② 問題Ⅰは共通問題である。受験者は、全員、この問題を解答しなさい。
- ③ 問題Ⅱは選択問題である。受験者は、AまたはBのいずれかを選択し、解答しなさい。

【解答用紙の使用方法】

解答は問題Ⅰと問題Ⅱについて、別々の解答用紙に記入すること。

.....

問題Ⅰ

近世・近代における皇位継承について、具体的な例を挙げながら論じなさい。

問題Ⅱ

A

次の【史料ア】・【史料イ】を読んで、問1～8の設問に答えなさい。なお、出題の都合上、史料の表記を改めたところがある。

【史料ア】

乍恐以書附奉願候

一、酒井安芸守領分 (a) 房州平郡勝山村名主格新兵衛奉申上候、(b) 先般蝦夷地御開被遊候三付、望之者有之候ハ、彼地ハ出張兼而御触之趣、承知罷在候処、鯨漁ノ儀三付、一昨年午ノ春中、私儀御呼上ケニ相成、漁師共召連彼地ハ渡海、所々実見仕候処、魚漁方不手入ノ場所モ有之、旁此度漁師共召連彼地ハ罷越、鯨漁并暇有之節外雑魚モ仕、自然彼地ノ者ハ鯨漁并雑魚漁方為見習申度、左候ハ、(c) 御益筋ニモ可相成哉奉存候、(d) 本場所ノ儀ハ於彼地御差支無御座御場所御指図被成下候様仕度、外漁事方ニハ聊差障不相成様仕度候間、此段偏ニ奉願上候、以上、

(e) 万延元申閏三月十八日

酒井安芸守領分

房州平郡勝山村

名主格 新兵衛

箱館御奉行所

御役人衆中様

〔安房郡水産沿革史〕所収文書

- 問1 傍線部(a)「房州」とは、旧国名の略称である。
イ その国名を答えなさい。
ロ その国は現在のどこにあたるか。現行の県名で答えなさい。
- 問2 傍線部(b)につき、この時期に幕府が「蝦夷地御開」という政策を取った理由を、簡潔に述べなさい。
- 問3 傍線部(c)につき、次の問いに答えなさい。
イ 傍線部(c)の主語を、【史料ア】のなかから書き抜いて答えなさい。
ロ 傍線部(c)の主語が、「御益筋」になると考えた事業を、一点にまとめて簡潔に答えなさい。
- 問4 傍線部(d)を、すべてひらがなに記しなさい。
- 問5 傍線部(e)は、西暦では何年にあたるか。次の記号Ⅰ～Ⅳのうちから選択し、記号で答えなさい。

Ⅰ 一八五〇年 Ⅱ 一八六〇年 Ⅲ 一八七〇年 Ⅳ 一八八〇年

【史料イ】

(前略) 五十六代清和天皇、九歳にて即位したまふ。これ幼主登極の始めなり。(中略) 六十代 **A** 天皇は十三歳にて即位なりといへども、中世の聖主なり。故に治を言ふ者まづ延喜を称す。六十一代朱雀天皇、八歳にて即位なり。かくのごとく往々冲幼の主上立ちたまふにより、權威自ずから相門に帰し、(中略) これ国権大勢の一変なり。七十三代堀河帝の時より以降は、また政を院中に聴きたまひ、(中略) 主上も摂政も虚位を擁す。これ大勢の二変なり。(中略) この二乱に **B** 軍功あるをもつて武威加はり、かつは高倉帝・安徳帝の時、**B** 官相国に至り威權を専らとす。一門皆横虐なり。源氏これを伐ちて軍功あり。(中略) こゝに至りて **C** 始めて覇府を関東に定むるの以降、今に至りて国命永く幕府の有となること、これ大勢の三変にして、王綱ついに振はず。(中略) 当府の (f) 祖君に至りては、小国の臣に (g) 執權を命じ、宗室貴族および大国の輩にこれを任せず。權を執る人小国の世臣にて、もとより忠心なり。万が一不軌を謀ることありと云へども、これを除くに難からず。実に祖君の神慮妙なるかな。

(嘉永六年序、喜田川守貞『守貞漫稿』卷之一より)

問6 空欄 **A** と **C** にあてはまる、人名を示す語句を答えなさい。

問7 傍線部 (f) の指す人名と、傍線部 (g) の指す役名とを、それぞれ答えなさい。

問8 【史料イ】を連読し、その筆者により示された「(国権)大勢」の変化に関する時代区分の認識につき、簡潔に説明しなさい。

問題Ⅱ

B

次の【史料一】・【史料二】を読んで、それぞれ下記の設問（問1～問7）に答えなさい。
なお、出題の都合上、一部、史料の表記を改めたところがある。

【史料一】

大坂、横浜、岐阜、名古屋、敦賀、西濃等之諸店大損失、いづれも及破産候、(a) 大坂大七井箱館大六之二店之ミ不相変繁昌之由ニ御座候得共、右諸店之大敗ニ而惣括之大会計者如何相成候哉、此節取調中ニ而破産之諸店者閉店仕、(b) 此度者惣括之精算仕度屋夜心配罷在候、畢竟諸店共開業之例少々利潤有之候処より支配人共慢心驕氣相起リ、分外之見込立等いたし、或者酒色之失より大敗を招キ候次第ニ御座候、支配人之処も推拳仕候様蒙御沙汰候得共、右之次第柄知人ノ難キコト大ニ發明仕候、(c) 外旧諸藩より諸方へ出候商店も同様十二八九者大敗之由ニ承申候

(内山良治家文書)

- 問1 傍線部(a)をすべてひらがなにして書きなさい。
- 問2 傍線部(b)の意味を現代文で記しなさい。
- 問3 この史料は大野藩の産物会所を引き継いだ大野屋の経営状況について、一八七九(明治十二)年に書かれたものである。傍線部(c)のような結果となったことについて、考えられる理由を書きなさい。

【史料二】

五、但し不干渉を標榜し居る以上急速には不進、又此間右根本目的遂行の為には今後共国際連盟の神経を刺激するか如きことも尚ほ幾分は免れ難く、就ては此際米国側の輿論を良くすること必要と被存候儘日露戦当時(d)金子々爵の渡米ありし如く、有力者の此際渡米遊説相成ること必要と存し、中央部へも其希望を述べ居る次第に候。又新渡戸博士等か今回は(e)太平洋會議に於て大に活躍相成りしを幸ひ全会終了次第、全博士及鶴見等若干名を滿州に招待することに満鉄と相談致居る次第に候。太平洋會議に列せる外人連も満鉄か人を介し滿州の実情を視せしむることと致居り候。

六、例の(f)三月事件の延長たる去る客月十六七日頃の事件(熱血將校のこと)に伴ひ当軍にも関係者なきやの御心配相掛け候趣、石原中佐とか花谷少佐とか向意気強く毒舌を吐くを快とする幕僚多き為め色々の誤解を各方面に伝へ、加之在留邦人中の豪傑連か關東

軍を押立て満州の独立を謀る杯冗談が真実らしく中央に伝はり其他色々の風聞もあるらしく余り馬鹿々々敷、此国難多事の際如此途説を相手にする暇も無之、無論遣り過ぐる位の元氣者は不少、又想はさる手落等も出来致候得共、大義名分を誤るか如きものは断して無御座其点は御安神願上申候。

不取敢近況大要申述度焦慮致しなから思ふ様に進捗せず遺憾に不堪候得共、我政府か更に世界的輿論を我に好転せしむる平、乃至世界の意向に頓着せず今暫く強固に邁進し呉るゝならば満州問題は必ず有利に解決可致と存申候。余は万々後便に議り可申候。

早々敬具

十一月二日

本庄繁

宇垣大将閣下

(宇垣一成関係文書)

- 問4 傍線部(d)にある「金子々爵」の姓名を書きなさい。また、ここで筆者が提案している「渡米遊説」は、史料二の文中に出てくるある人物が実際に行つたことが知られている。その人物の姓名を書きなさい。
- 問5 傍線部(e)「太平洋會議」の正しい名称を答えなさい。
- 問6 傍線部(f)の事件は、何とよばれているか、答えなさい。
- 問7 史料の書き手である本庄繁は、当時、関東軍司令官であつた。史料中には、石原(莞爾)も関東軍幕僚の名も見えるが、本庄司令官と石原莞爾とは「満州問題」に対する見解が異なっているようである。両者の見解の相違について、説明しなさい。